

## 「家計調査」から見るコロナ禍の影響

著者	古澄 英男
雑誌名	エコノフォーラム
号	28
ページ	69-69
発行年	2022-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10236/00030292">http://hdl.handle.net/10236/00030292</a>

2021年  
6月24日  
木曜日

昨年来の新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）は、私達の経済・社会に大きな影響を与えている。ここでは、感染症が家計の消費動向にどのような影響を与えたのかについて、統計調査の一つである「家計調査」から見ていくことにする。

はじめに「家計調査」について簡単に説明しておく。「家計調査」は総務省が行っている統計調査で、家計の収入・支出の実態を把握することを目的としている。「家計調査」では、学生の単身世帯や外国人世帯などを除く全国の世帯から約9、000世帯を抽出し、毎月その世帯の収入がどれくらいあり、どんなものをどれだけ購入したかを調査している。その調査項目は6000以上におよび、詳細な品目別消費金額を把握することができる。

図1には、二人以上の世帯におけ

古澄 英男 教授（計量経済学）

# 「家計調査」から見る「コロナ禍の影響」

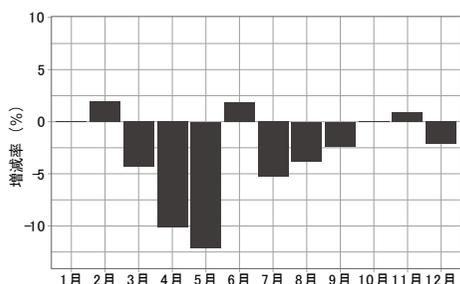


図1：消費支出の増減率

る1世帯当たりの消費支出の増減率が示されている。ここでは、2019年10月に消費税の税率が引き上げられたことを考慮し、2015年～2019年の平均値と2020年の消費支出を比較して増減率を計算している。この図より、1回目の緊急事態宣言が発出された4月と5月に

において、消費支出がかなり落ち込んだことがわかる。その後、徐々に消費支出は持ち直してきたが、12月のいわゆる第3波の影響によって再び消費が減少に転じたことも確認できる。

「家計調査」では、消費支出を10大費目に分類している。それらの増減率が図2に示されている（図1と同様に2015年～2019年の平均値と2020年の支出額を比較している）。図を見ると、「被服及び履物」と「教養娯楽」において消費が著しく減少したことがわかる。これについては、実感と一致するのではないであろうか。一方、「家具・家事用品」や「保健医療」においては消費が増加している。「家具・家事用品」について詳しく見てみると、テレビへの支出金額が増加していると、菓ごもり需要の影響であると考

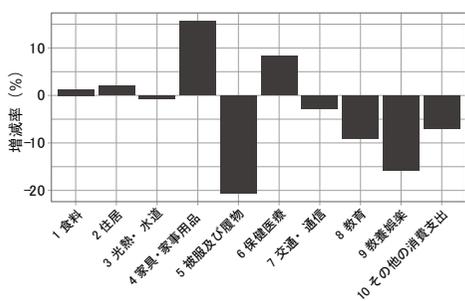


図2：消費支出の増減率（10大費目）

えられる。また、ベッドへの支出も約50%増えており、これについての理由はよくわからない。ここで紹介した以外にもいくつか興味深い結果がある。「家計調査」のデータは誰でも利用可能なので、興味のある人は一度自分で分析してみるとよいであろう。